

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
【スクールミッション】（社会的役割） 国際教育や実践的・体験的な教育を推進する普通科を設置する高校として、地域との関係機関と連携した授業や探究活動を通して、確かな学力を身に付け、持続可能な地域社会づくりを担う人材を育成する。 【スクールポリシー】（三つの方針） 1 育成を目指す資質能力に関する方針 （このような力を育てます） ・生徒が、学びに向かう力と何ごとともあきらめず挑戦する態度を身に付けられるようにします。 ・生徒が、社会とつながる意欲と社会の中で自らを活かし社会に貢献できる知識や技能を身に付けられるようにします。 ・生徒が、積極的に人とつながろうとする人間性とそれを支えるコミュニケーション力を身に付けられるようにします。 2 教育課程の編成及び実施に関する方針 （このような教育活動を行います） ・地域社会やコミュニティと主体的につながり、学校内外のリソースを活かす教育活動を推進します。 ・生徒が基礎・基本を確実に習得し、思考・判断・表現を繰り返す授業を実施します。 ・体験や対話を重視し、生徒がアクティブに学習する探究的な学びや選択科目の授業、国際性を磨く取組を実施します。 ・生徒が高校生活を豊かにし、一人ひとりの個性を磨く「私の+α」活動（部活動・学校行事等）を主体的に実施できるよう支援します。 ・夢や目標を見つけ実現できるように、生徒自身が主体的に進路を切り開くキャリア教育を推進します。 3 入学者の受入れに関する方針 （このような生徒を待っています） ・自らの強みを生かして自分・学校・地域を良くしようという意欲にあふれた人を待っています。 ・バランスの取れた総合的な学力を高校入学後もいっそう伸ばそうとする意思を持った人を待っています。 ・多様性を受け入れ、自他の個性を尊重し、豊かな人間関係を築こうとする人を待っています。	【成果】 ○学習用端末を活用した授業が定着し学習の個別最適化を図るとともに主体的な学習活動を展開することができた。 ○進学指導では、模擬試験の事後指導や個別の添削指導を行うなど生徒の実態に即した指導を行うことで成果（国公立大学7名・公立短大3名合格）をあげることができた。また就職指導では3年生を対象にインターンシップを企画実施したり、1・2年生対象に地域企業と連携した体験型のガイダンスを実施し、職業を知る機会を提供することで主体的にキャリアを形成していく力の基礎を養うことができた。 ○総合的な探究の時間において、1年生（マイガクⅠ）では、探究活動の基礎となる人間関係づくりを中心とした取組を行い、2年生（マイガクⅡ）では行政や地域企業等と連携した取組を実施することで、多様な視点で課題を自ら発見し、論理的思考や協働的な活動を基に、解決方法を地域・社会に発信できる生徒の育成の基礎を築くことができた。 ○学校設定科目では、地域との連携に留まらず積極的に京都府や舞鶴市、外部団体と連携した取組を行うことで特色ある教育活動を発信することができた。 ○教育相談会議ケース会議をで生徒状況を共有し指導することで入学した1年生が全員進級することができた。 ○生徒会活動や部活動では、生徒が主体的に取り組む姿勢が多く見られた。生徒会活動では教職員とのランチミーティングの取組を開始した。また、ボランティア部の「幼稚園等に絵本を贈る活動」が舞鶴市青少年善行表彰を受けた。 【課題】 ○学習者としての目線を大切にしたい指導の継続とともに、学習習慣の定着を図るため、到達度テストの結果分析を全教職員で共有し、各教科での対応を検討する必要がある。 ○3年生の進学状況の成果を再確認し、模擬試験や検定試験を受験することの意味をさらに明確にした指導をする必要がある。 ○教職員全員体制で総合的な探究の時間に対して主体的に取り組む必要がある。 ○令和7年度はデジタル採点ソフト（採点ナビ）の活用が必須であるため、業務改善の取組を含め学校DX推進チームの在り方を充実させる必要がある。 ○生徒の主体的な活動は多かったが、生徒自身が企画運営する取組をさらに増やす必要がある。 ○在籍する生徒の実態を確実に把握し、学習指導・進路指導・生徒指導を一体的にとらえた支援体制・指導体制の構築を目指す。 ○探究活動（マイガク）や学校設定科目を大学や研究機関との連携等に取り組むことで、生徒自身が自己有用感や将来への展望を明確にできるようにすることを目指す。 ○学校に対する地域の高い評価を得るために、諸活動を積極的に発信するとともにその方法について検討改善を目指す。	【重点1】 生徒が主体的に学習したり進路を選択・実現する力を育成する (1)学習習慣の定着と学力向上のための、学習者目線を大切に授業改善の実施 (2)探究的な学びの充実及び実社会と結びつけたキャリア教育の充実 【重点2】 教育DXを推進する (1)ICTを活用した学校運営の改善及び働き方の改革 (2)ICTを活用した教育活動の充実のための教職員・生徒の資質の向上及び環境整備 【重点3】 学校の強みを磨き、積極的・効果的にそれを発信する (1)地域との関係機関・団体・個人との協働による一歩踏み込んだ地域創生活動の実施 (2)生徒による情報発信や創造的活動・表現活動の機会の創出 【重点4】 積極的な特別支援教育及び生徒指導・教育相談を推進する (1)配慮を要する生徒への個別指導・支援の充実 (2)生徒の主体性を育てる取組（部活動・学校行事等）の充実

令和7年度 京都府立東舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
重点1 生徒が主体的に学習したり進路を選択・実現する力を育成する	(1)学習習慣の定着と学力向上のための、学習者目線を大切にした授業改善の実施	○学習用端末等での課題配信や課題提出を積極的に利用し、学習者（生徒）が学習に取り組みやすい環境・時間を作る。 ○学習者（生徒）の諸課題を精選しながら、取り組む学習内容を焦点化し学習効率を向上させる。 ○学習サポート教室を継続的に実施し支援の必要な生徒の自立に向けてサポートする。 ○到達度テストの結果分析を全教職員で共有し、個別最適な学びと家庭での学習習慣の定着を図るため、連動課題配信等を有効活用する。 ○進学・就職に向けた意識を高める補講等を積極的に実施する。 ○模擬試験・検定等の意味を明確にし、受験を積極的に促す。また、模擬試験の分析を基に事後指導を確実にを行い、取組をより鮮明にすることで学習意欲の向上を図る。		
	(2)探究的な学びの充実及び実社会と結びつけたキャリア教育の充実	○総合的な探究の時間（マイガクⅠ）では、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を踏まえ、探究活動の基礎を身につけるとともに、チームビルディング等の活動をととして集団の人間関係の形成を目指す。 ○総合的な探究の時間（マイガクⅡ・Ⅲ）では、前年度の探究活動をふまえ、主体的にテーマを設定し、多様な視点から未知に挑戦する姿勢を育む。また、プレゼンテーション等実践的な活動を実施し、課題解決を図り、地域社会に貢献する態度を養う。 ○行政や地元事業所・教育機関に積極的に協力を依頼し、進路ガイダンスやインターンシップを実施したり、各種ボランティア活動を通して、生徒が主体的にキャリアを形成していく力を養う。		
重点2 教育DXを推進する	(1)ICTを活用した学校運営の改善及び働き方の改革	○保護者等からの欠席連絡等、また保護者等への連絡など、アプリ（さくら連絡網）やTeams等をさらに有効活用し、効率化を図る。 ○Microsoft TeamsやFormsを活用し、個人情報を含まないことについては、積極的にデータ化し共有する。 ○学習支援アプリ（ロイロノート等）・デジタル教材及びデジタル採点ソフト（採点ナビ）を積極的に活用し、授業の効率化を図る。		
	(2)ICTを活用した教育活動の充実のための教職員・生徒の資質の向上及び環境整備	○学校DX推進チームを主体とした公開授業の実施や、円滑な学校運営に繋がる研修会を積極的に実施する。 ○校内全施設のネットワーク環境の充実を促進する。 ○教職員間で指導方法や学校DX研修等で得た知識や情報を積極的に共有し、資質の向上に努める。		

令和7年度 京都府立東舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （計画段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
重点3 学校の強みを磨き、積極的・効果的にそれを発信する	(1)地域の関係機関・団体・個人との協働による一歩踏み込んだ地域創生活動の実施	○地域企業・団体と連携し、地域活性化の方策を協働的に探究する。 ○地域人材を活用し、地域産業や文化に触れさせる取組を実施する。 ○学校設定科目を中心に地域小学校及び保育園・こども園等と連携した取組を実施する。 ○生徒に対し地域ボランティアや地域活動の情報を積極的に発信し、地域と繋がる生徒を増加させる。			
	(2)生徒による情報発信や創造的活動・表現活動の機会の創出	○総合的な探究の時間（マイガクⅠ・Ⅱ・Ⅲ）の活動を積極的に発信する。 ○生徒が撮影・作成した動画等を積極的に配信し、学内の日常や生徒の活動、努力する姿や成長した姿を発信することで、本校の魅力の周知に努める。			
重点4 積極的な特別支援教育及び生徒指導・教育相談を推進する	(1)配慮を要する生徒への個別指導・支援の充実	○教育相談会議、ケース会議、スクリーニング会議などを十分に機能させ、情報共有等を円滑に進め、学校全体で必要な指導・支援を進める。あわせて、全教職員の理解・知識を高めるために積極的に研修を実施する。 ○特別支援教育コーディネーターを中心に、教科主任会議を定期的に実施し、生徒情報の共有と配慮を要する生徒に対する手立てや方策の共通認識を行う。			
	(2)生徒の主体性を育てる取組（部活動・学校行事等）の充実	○ボランティア活動を促進し、社会への貢献を実感させる。 ○生徒会活動をさらに充実させ、体育祭や文化祭等を主体的に企画運営させる。 ○学校行事及び探究活動やHR活動・部活動等において生徒主体の機会を設ける。 ○校外の各種イベントやコンテストに積極的に参加を促し、主体的活動を通して社会性や自己肯定感を育成する。			
学校関係者 評価委員会 による評価					
次年度に向けた 改善の方向性					